



レフェリー評価票の記入方法

2020年版

(公財) 日本ハンドボール協会審判本部

○現在国内で使用している「レフェリー評価票」は、IHFで使用しているものと同様である。2016年2月、香港にて行われたAHFチーフレフェリー・TDセミナーにおいて、その記入の仕方について、下記の通り具体的に説明がなされた。国内の上級審判員審査会および、全日本大会審判員評価においても、この評価票を使用し、審判員へのフィードバックおよび指導に役立てていく。

1 「レフェリーの総合評価」

7段階で評価する。以下にその基準を示す。

評価項目の(1)～(3)は、審判員としての基本姿勢に関わる大切な項目である。全日本大会審判員(A級・B級)評価においては、(1)～(3)の項目において「適切」以上の評価がつくことが条件となる。また、**A級審査においては、(1)～(3)の項目において「良い」が2つ以上つくことが条件**となる。

(1) とてもよい……トップレフェリー、指名レフェリーに求められる

- レフェリーの判定ミスがほとんどなく、ゲームに影響を与えていない。
- 基準がとても明確で理解しやすい。
- ペア間でのバランスがよい。

○すばらしいゲーム運営がなされており、明らかにレフェリーが受け入れられている。

(2) 良い……A級審判員の合格ライン(2017年改訂)

- レフェリーの判定ミスが少ししかなく、ゲームに影響を与えていない。
- 基準が理解しやすい。

○すべての項目において、「不十分」の評価がつかないこと

○(1)～(3)の項目において、「良い」の評価が2つ以上つくこと

○(4)～(9)の項目において、「良い」の評価が3つ以上つくこと

○適切なゲーム運営がなされており、レフェリーは概ね受け入れられている。

(3) 概ね良い……レフェリーコースの合格ライン(2017年改訂)

- レフェリーの判定ミスが少しあるが、ゲームに影響を与えていない。
- 基準にややぶれがあるが概ね理解しやすい。

○レフェリングの「評価項目」(4)～(9)の中で、**不十分な項目が1つ**しかない。(例 (4) 1対1の局面 罰則 など)

○「項目ごとの評価」(1)～(3)において「適切」以上の評価がつく。

(4) 適切……全日本大会審判員・B級審判員の合格ライン

- レフェリーの判定ミスは少しあるが、ゲームに影響を与えていない。
- 基準にぶれがあるものの、

○レフェリングの「評価項目」(4)～(9)の中で、**不十分な項目が2つ**ある。(例 (4) 1対1の局面 罰則 (7) 違反 ステップ など)

○「項目ごとの評価」(1)～(3)において「適切」以上の評価がつく。

(5) ほぼ適切

- レフェリーの判定ミスは多いが、試合結果には大きな影響を与えていない。(例 点差の開いた試合 等)

○基準のぶれが大きく、一貫していない。

○レフェリングの「評価項目」(4)～(9)の中で、**不十分な項目がいくつか**ある。(例 罰則 ステップ 攻撃側の違反 等)

○「項目ごとの評価」(1)～(3)において「適切」以上の評価がつく。

(6) やや不十分

- レフェリーの判定ミスは多いが、試合結果には大きな影響を与えていない。
(例 点差の開いた試合 等)
- 基準のぶれが大きく、一貫していない。
- レフェリングの「評価項目」(4)～(9)の中で、不十分な項目がいくつかある。(例 罰則 ステップ 攻撃側の違反 等)
- 「項目ごとの評価」(1)～(3)において「不十分」の評価がつく。

(7) 不十分……初心者、未経験のレフェリー

- レフェリーの判定ミスが多い。
- 多くの判定ミスが明らかに試合結果に影響を与えている。
- 基準のぶれがとても大きい。
- レフェリーの勝手な判断が、ゲームに影響を与えている。
- レフェリーはゲームを理解していない。
- 明らかにレフェリーがゲームをコントロールできていない。

2 「項目ごとの評価」4段階

(1) とても良い

- 申し分がなく、判定ミスがほとんどない。

(2) 良い

- 概ね満足できる、基準のぶれが少なく、チームにも受け入れられている。

(3) 適切

- 判定ミスがあり、改善は必要であるが、基準のぶれは少なく、チームにも受け入れられている。

(4) 不十分

- 判定ミスも多く、基準が受け入れられない。改善を要する。

3 「コメント」

- 別紙「レフェリー評価に関する着眼点」を参考に、レフェリーに対して今後改善を要する点について具体的に記載する。
- 上級審査会においては、審査に合格・不合格した理由について具体的な記載があるとよい。レフェリーにとって今後何を努力していくべきなのか明確にし、指導・および評価の一体化を図る。
- 評価票裏面については、審査の際メモとして使用する程度で活用し、必要に応じて指導に役立てる。

例)

(6) 7mスロー	明らかな・	○	十分に身体をコントロールして打ったものに与えている
	ゴールエリア・		
	ボール・		

4 「ゲームの難易度」

- 試合全体を客観的に観察して、難易度がどうであったかをチェックする。
- 「とても難しい」「難しい」「やや難しい」についてはその理由としてあてはまる項目をチェックする。(複数可)
- 「レフェリーがゲームの流れを作った」は意図的な介入があったと疑われる場合にチェックする。